

宇治茶生産農家の世界文化遺産登録推進についての意向調査（概要）

●宇治茶の世界遺産登録推進についての意見

- ・期待と不安がある。
 - 期待：観光面や流通関係
 - 不安：人が多くきて作業の邪魔になる。観光受入、コミ問題等
- ・海外に宇治茶を持って行き売るやすくなり、経済的効果が期待できる。
- ・宇治茶の何が優れているのか明確にする必要がある。
- ・茶園を集団化して見せる茶園づくりや本ず茶園の保全も必要
- ・世界の人にお茶を飲んでもらいたい。観光客が増えて、毎日の接待は不可能だが、週に1日ぐらいであれば対応可能。
- ・宇治茶を世界に打ってでる。宇治茶を買いに京都に来ていただく。国内消費が低迷する中、本物のお茶を世界に広げていかないと宇治茶が残れない。
- ・大規模茶園、共同製茶工場で効率的な生産と伝統の茶園を世界遺産として守っていく。この両方をやっていると、茶業、宇治茶は残らない。
- ・世界的なブランドになれば宇治茶が売れる。活動で終わらないように。
- ・海外では、日本茶（煎茶、玉露等）は、Green tea でひとまとめにされており浸透していないため、もっと知ってもらう必要がある。これをきっかけにして茶園などを守れるしくみが作ればよいことである。
- ・宇治茶は茶種が豊富であり、品質も誇れるため、世界に広めたい。

●生業を継続していくための茶研、普及センター、行政に期待すること

- ・茶業生産の後継者を育成する機関や場所は必要。
- ・若手生産者の交流や異業種との交流（情報交換のできる場の設定）
- ・お茶の効能解明や分析によるおいしさ等、宇治茶の違いの数値化
- ・手摘みの文化を残すために、摘み子さんにスポットを当てた技能登録制度や表彰制度
- ・茶業研究所では自己流のやり方ではない基本を勉強することができた。また、人脈をつくり広げる良い機会となるなど本当に勉強になった。
- ・茶業研究所での研修の中で、農家に実習で経験を積むことも必要
- ・消費を増やすために子供たちへのアプローチ（将来の需要者）や新たな飲み方の開発
- ・1 ha の茶園を確保して、就農できる研修制度など新規就農者が入りやすい支援策
- ・農道を整備することで維持できる茶園もある。（面積を増やしても管理できる環境整備）
- ・新規参入がしにくい産業なので、今いる茶農家の担い手や後継者をしっかりと育成する施策。（後継者にメリットがあるような施策が少ない。）
- ・設備の更新等をうまく進めなければ、茶園や工場を維持できないため、更新や修理も対応できるような事業。
- ・情報収集と引き受け手とのマッチングなど茶園が荒れる前に手を入れることが必要。

●今後の動向

- ・後継者や作り手のない茶園を引き受けて継続的に続けるシステムが必要
- ・普段の管理は所有者が行い、摘採と加工は別の人が行うようなシステムができれば荒廃茶園が減らせる。
- ・個人では限界があるため、茶園を守る仕組みをつくる必要がある。